

< クリスマスの讃美 >

【讃美は口に・心に】“ルカによる福音書”の初めのところには、四つの讃美があります。

【マリヤの讃歌】その第一は“マリヤの讃歌”(マグニフィカート、あるいはマニフィカート)です(1:47~55)。

【ザカリヤの預言】第二の讃美は“ザカリヤの預言”と呼ばれる讃美で“聖霊に満たされ、こう預言した(1:67)”とあります。“その方は民を訪れ解放して下さる(1:68~79)”と、知り得た神の御心を讃美しています。

【(羊飼いに与えられた)天使の讃美】第三は“いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ”とある2:14の讃美です。ここでは、決して裕福な者たちではない羊飼いに讃美が与えられています。羊飼いやそのように讃美したかもしれません。

【シメオンの讃美】降誕より、少し後になりますが、“清めの期間(おそらくは40日)”の後の神殿での出来事です。幼子主イエスが、神殿で捧げられる時の出来事です。シメオンは聖霊のお告げによって“メシアにあうまでは死なない”と約束されていた人でした(2:36)。シメオンは主を抱き上げ讃美します。“ヌンク・ディミトゥス”という有名な教会の歌がそれです。

【降誕の讃美歌】このようにみると、直接主の誕生に関わった人たちは、讃美をしています。その一つ一つには重要な意味があることに心をとめましょう。それは、現代の教会に於いても同じことです。讃美をするのです。ただ意味なく讃美をするのではなく、救いに出会っていることを主に感謝するのです。預言の多くを思い出し、確信し、何を讃美しているのか、私たちにも分かっていることを讃美しているのです。ですから、その讃美において私たちは、聖書の全てを心に思い起こし、神のことばを聞くのです。“主を知る”という知恵の初めがなく、ただ讃美する(そんなことは出来ないのですが)ということでは、讃美歌は意味を持ちません。“聖書の言葉だ”ということの出来る者にとって意味があるのです。反対に考えてみましょう。ラテン語やその他の外国語の下にカタカナで歌詞が書いてある譜面、美しいハーモニーを作りだし“これが神だ”と言って“会衆に聞かせたら”、讃美とは関係のない世界の出来事になってしまうのです。

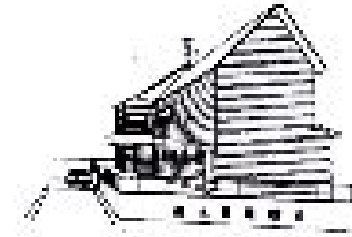
【音楽と讃美歌】昔から、美しい音楽は、讃美と混用されることが沢山ありました。音楽的な美は、まずルカ福音書にはありません。多くの作曲家が、これを歌詞として、演奏に取り入れました。讃美の素晴らしさを表現しようとしたのです。音楽理論からの挑戦と言えます。しかし、もし私が何も知らないとして、音楽の美しさに触れても、それは福音とは無縁なのです。ここに現代に及ぶ教会の“落とし穴”があります。また芸術的な音楽を聞かせることを目的にはしません。

【サル(の絵)】聖書には山のように沢山の讃美がありますが、音楽的な技巧には触れてはいません。詩編で“讃美せよ”と言われている時、音楽理論に長けた者になれとか、もっと上手に歌え、ということは全く意味していません。良い心は、時に、偶像を生み出すのです。絵画の美しさや、その他美術や技巧の美しさは、もしそれが信仰だと思ったら“十誡”で禁止された偶像になります。ましてや聞かせるために讃美をするでもありません。“どうです、美しい歌でしょう・上手でしょう”と言ったとしたらその瞬間に、福音は偶像崇拜に代わってしまうこととなります。もしあなたに“サル(の絵)”を見せて、“これがあなたです”と言ったらどうなるでしょう。作り上げた偶像礼拝の持つ危険性を説明するにはこれで十分でしょう。“私がこんなに気分良く讃美しているのに、どうしてみんな、乗ってこないんだ”と言いたげな、一部のゴスペルシンガーといわれている人達は、このことをしているのです。偶像を見せて“これが神信仰だ”と。

【教会の讃美】主イエスの誕生に関わる教会から、讃美は消えませんが、そのことを、ルカ福音書はまず語っているのです。讃美しましょう。

週報

2010年 12月 5日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル(の)会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042